日本テコンドー協会審査法

ＪＴＡ初段昇段審査論文法　ー　手書き論文義務化

通知２０１６年４月２２日
日本テコンドー協会
宗師範　河　明生

決定通達事項

日本テコンドー協会（以下、ＪＴＡ）初段昇段審査論文（ＪＴＡ基礎理論講義内容）は、
ワープロは不可とし、「受験者本人の自筆による手書き論文」を義務化する。
２０１６年4月２３日より実施する。

理由

１，ＪＴＡの創始者は、人間の本性につき「性善説」に立っている。
だが、おかれた環境次第で「性悪説」になりうることも知っている。
努力しても、しなくとも、結果や待遇が同じであれば、多くの場合は努力をしない。
しかし、努力を怠れば、幸せは確実に遠ざかる。
とりわけ才能や知力が足りない者が、努力を怠り、
あたかも自分の不幸せな境遇の原因を他者の問題としてすり替え、
不平不満ばかり口にするようになれば結果は自ずから明らかである。
やはり努力は、人間の善を呼び起こす最良の人生哲学であるといえる。

ＪＴＡの昇段課程の目的は、官庁や企業の不義不正が後を絶たない根本的な原因、
すなわち「人の善を堕落させている功利主義的金儲け」以外の分野で、
努力することの尊さを再確認することにある。
「努力」の「努」を分解すると、「女」＋「又」＋「力」さらに加えて「力」をいれろ、となる。
これは新しい命をこの世におくりだす出産を意味していると思う。
古今東西、医学が未発達な時代が長らく続く中、女性にとって出産は、まさに命がけの行為であった。
この英雄的いとなみがなければ、人類は種の保存をはかれなかったのであり、我々の存在もない。
新しい命を誕生させるための絶え間ない「努力」。
やはり「努力」は、生ある限り、忘れてはならない道しるべといえよう。

弱いというコンプレックスを克服した生まれ変わった「新しい自分」を産め！

これこそが、ＪＴＡの推進する武道教育・昇段課程の目的である。

２，ＪＴＡの基礎理論は、毎年、新しい学術成果等の知見を加味し、バージョンアップしている。

科学は日進月歩しているのだから当然である。

そのため、毎年、板書も改良改訂している。

ゆえに、古参の有段者門人が学習していない知見が少なくない。

ところが、そうであるにもかかわらず、ここ数年、かつての旧バージョンにそった内容の論文が目立つ。

板書を自筆で書くことを義務化しているのだが、板書をとらない受講生もいる。

論文には、はずしてはならないテクニカルタームがある。

講義内容が改良改訂していれば、上記が加わるべきところ、それがない論文が目立つ。

これはメモリースティックに記憶された古い板書にもとづく「合格論文」を

先輩の黒帯等から貸してもらい、そのままコピーしているからかも知れない。

オリジナルは数行のみですませてしまう。

まさに今風の功利主義・効率主義・合理主義である。

だから自筆で板書をとる努力をしないのだろう。

若い頃から、こういう姿勢では、長じて大成は難しい。

功利主義・効率主義・合理主義はかならず破綻するからである。

２０代の自殺が多いのがその証左であろう。

青春とは努力の試行錯誤の繰り返しである。

経験や知力はないが、若さと体力、瑞々しい感性があるのだから愚直に努力すべきである。

すぐに結果がでなくとも、持続的に努力する姿勢こそ涵養すべきである。

遺憾ながら、最近、まったく同じ論文が二人の大学生から提出された。

違うのは数行のみ。

修正しなければならない箇所もまったく同じであった。

（論文の制度上の欠陥なので、とがめる考えはまったくない）

果たしてこれが「努力」と言えるのだろうか。

「努力」を怠っているのに、

　弱いというコンプレックスを克服した生まれ変わった「新しい自分」を産めるのであろうか。

こういうことを考えるそれ自体が性善説に立つ身からすると苦痛である。

他方、同じ大学の大学生の論文には、自分の体験に根ざした優れた論文もある。

つまるところ個人の資質の問題と言うことになろうが、
それでは均一的な武道教育システムにはならない。

たかが武道、されど武道。
ＪＴＡが推進奨励するテコンドーは、楽しむことを第一義とするスポーツではない。
少しでも幸せになるため、己を高めるための武道である。
「武道」は、「武士の道」と表記しているのだから当然だと思う。

とはいうものの、会員はそれぞれの目的にそったテコンドーを励めばよいと思う。
日本は自由を尊ぶ風土があるのだから強制されるものではない。

しかし、ＪＴＡの組織上は、理想を追求する姿勢を堅持しなければならない。
とりわけ昇段は、昔で言えば免許皆伝。
昇段するかしないかは会員各自の自由な意思にもとづくものだが、
昇段の合否は、昇段を認可する武道組織の主義主張にそったものであるべきだ。

ＪＴＡの初段昇段は、努力しなければならない。
初段昇段審査の必須課題である論文執筆は、
まず自分で板書をとることから始まる。
次いで手書きする努力課程を通じ、記憶に定着させることにある。
その上でＪＴＡの黒帯をしめ「新しい自分」を産んでいただきたい。

以上